日本行動計量学会会報
第19号
1979年10月10日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
(〒106) 東京都港区
南麻布4−6−7
統計数理研究所内

いよいよ80年代の活躍へ

松原望

人のゆく裏に道あり花の山……

最も有名な相場格言である。人は株を高い時に買い、安い時に売る。しかしこれでは相場に勝てない。上っている時に売り、値下がりしている時に買うことも必要。要は、人と同じことをしていては大成功は望めないということである。いわゆる「逆張り」の勧めで、「天井売らず　底買わず」なども同趣である。ただ、相場師の仕手戦の売り方敗北における如く、（ほとんどカラ売りなので）、天井知らずの犠牲を出すことも多く、単なる天邪鬼にはつとまらない。

意見決定過程の研究をしている者にとっては、これらのことは、大変気懸りで興味深いことである。株式市場は、参加者の主観確率が相当の程度に実体的確率に転化する、数少ない例の一つである。

ところで、強弱観が対立し、売買の錯綜する仕手戦などはとにかくも、相場人気という客観的な確率附与に、一八〇度相反する主観率を−それも相当のリスクを承知の上で−自ら設定することは、通常のノーマティブな（規範的）理論では到底説明できない。もとより、株式の売買行動にだけ、分析的理性に対する治外法権を認めるわけにも行くまい。

依然としてよく分らない。が、この領域が、どうも、データと意思決定のギリギリのきわどい接点の一例になっているらしい。この領域では、これらの関係は、「データに従って意思決定をする」というデータの俗流解釈とは、一変した様相を示す。普通、データは、包括的認識と理解を人間に与える。分析さえよければ、それなりに深い知見も得られる。しかし、自らの行動決定の命題の定立となると、この段階で、データとは一応切り離される。それが一意に意志決定者を抱束する（「データに従う」）ことは、ここでなくなる。

意思決定の本質は、むしろ「実務」にある。実務とは、作業であり、経験であり、データであり決断や反省もある。要するに、データから論理必然的に帰結するものではない。見かけ上は、つまり当事者以外からは、そう見えるとしても。

実務を伴なわない意思決定は多くは成功しない。そして、長期に見て成功せぬ意思決定はその名に恥じるものである。意思決定が本質的には実務だということは、つまりは、それが個別的問題解決を目ざしていることでわかる。意思決定の理論はこの中の共通部分をとり出したものである。

データが必ずしも意思決定に役立っていない現実は、つまりは、なすべき道をふまず、データに最終的、直接的真理を求める、「ないものねだり」を反映しているのではないだろうか？

ところで、これらは、結局は現実の場におかれた人間の現実の行動の問題であって、実際はたいへんむずかしいものである。しかし、これからの時代は、人間の行動に対してよりよき理解と、より深き洞察をもつものだけが時代の主人公となる時代となろう。

本学会は、これらの点からみて、80年代を先取りした学会だといえることは喜ばしいことである。若くて、活気に満ちた力強い発展が期待される。

（日本行動計量学会理事、筑波大学社会工学系助教授）

〃〃〃〃〃〃学会誌への投稿を歓迎〃〃〃〃〃〃

本年度から欧文誌も和文誌と同じ年二回発行になりました。

□どしどし投稿を。

□みながゆく学びの道の花の山…

第七回総会報告

実行委員長　生沢雅夫

今年の総会は、一九七九年九月六日（木）から八日（土）の三日間、大阪市立大学田中記念館で行われました。

実行委員は、井上通敏（阪大医）、上野雄宏（大阪市大文）、丘本正（阪大基礎工）、奥本隆昭（大阪市大工）、木下富雄（京大教養）、関田康慶（阪大経）、三隅二不二（阪大人間科学）、三宅一郎（同志社大法）の諸先生です。総会の企画・立案・設営・運営に当っていただきました。

また、大阪市立大学文学部心理学教室の教員（非会員のひとも含め）全員の協力を得ました。専攻学生も、手の空いているものは、全員が献身的に応援してくれました。

さて、今年の総会参加者数は、二〇一名（特別講演など招待者三名を含む）です。第四回総会（東大）の二一二名に次ぐ数です。内訳は、正会員一五六名、準会員三一名、非会員（招待者を含め）九名、賛助会員の所属員五名です。三日間の出席状況を、各セッション別に、発表件数、スライド件数などとあわせて示します。出席数はピーク時の人数です。

別表のとおり、個人発表は六二件で、これまでの最高です。このほか、パネルディスカッションで四件、特別講演で二件の講演がありました。

第二日目の特別講演のあとで催された懇親会には、四五名（招待者一名を含む）の参加があり、歓談を通じて親睦を深めていただきました。ただ、若い会員にもっと多く参加して貰えたらよかったと思います。

九月九日（日）には、国立民族学博物館の見学会を催しました。実行委員などの随行員を除き一一名の参加がありました。特別講演をお願いした、同館の杉田繁治氏の御好意によるもので、紙上を借り御礼申し上げます。

今年の総会は、東京以外としては、一昨年の岡山に続き二回目でしたが、予想を超える多数の発表があり、参会者も多く、この学会の着実な成長ぶりをうかがわせます。研究発表や討論も、座長、司会者をはじめとする参会者のかたがたの御協力により、スムーズにかつ充実した運営ができました。

実行委員長として反省している点もいくつかあります。会場への順路案内など、不十分で、広いキャンパスをうろつかれたかたもあったようです。いろいろ御迷惑・御不便があった点、おゆるし下さい。その他、気付いたことは、来年の総会の実行委員長に申し送り、参考に供したいと思います。

学会の成長・発展を念じつつ、総会報告を終ります。

（大阪市立大学文学部教授）

セッション等の別	発表件数	スライド	出席人数
第一日			
A社会心理・文化の計量	六	一	六二
B多変量解析	六	三	四三
総会（冒頭に学長挨拶）			六八
パネルディスカッション			九六
第二日			
C政治・経済	七	四	六六
D尺度構成	六	一	五五
特別講演			一〇三
第三日			
E社会医学・臨床医学	七	五	四〇
F数量化	七	六	七五
G臨床医学・医用電子	一一	一一	五〇
H社会・心理・教育	一二	七	五〇

〃〃〃〃〃〃〃第七回総会発表論文抄録集の購入を希望する方へ――

本年度の総会（大阪市立大）の論文抄録集に残部がありますのでご希望の方に有料でおわけいたします。

送料を含めた一冊の代金　二千八百円を、振替（東京八―一四八〇五六　日本行動計量学会）でお送りください。振替用紙の通信欄に「第七回抄録集購入希望」と明記すること。

なお、過去の論文抄録集もおわけできます。送料を含む代金は、

第一回（統数研）　一千円
第二回（統数研）　一千五百円
第四回（東京大）　二千円
第五回（岡山大）　二千円
第六回（立教大）　二千八百円

なお、第三回は残部なし

会議議事録

◇理事会（八月一日）
於　統計数理研究所
出席者　理事・監事　十二名

1. 第七回総会における五十三年度事業報告、同決算、五十四年度事業計画、同予算案の報告・説明は、それぞれ各部門の担当理事が行う。また、議長には総会実行委員の中から一人を推すことにし、人選を同委員会に依頼する。
2. 五十三年度決算に関して事務局の報告を了承、監査を受けて総会に提出する。収入総額は、四、四四四、一三五円、支出は、三、八九九、三四六円で、繰越し残高は、五四四、七八九円。
3. 五十四年度予算案は、事務局提出のものを小修正し、総会にはかることとした。欧文誌の刊行補助金（七十六万円）の増収を予定できる一方、増刊に関連してそれを上廻る支出増が見込まれるため、収支規模が大きくなった。
4. 選挙管理委員会の芝理事より六月に終了した役員選挙の結果（当選者理事十五名、監事二名）について報告があった。六月二〇日投票〆切り、二三日開票。有効投票数は一八二で、有権者総数の二二%。無効投票は七で期限切れなどの理由による。
5. 今期の活動にみられた諸問題について意見を交換。次期理事会での継続検討を期待することとした。
6. 総会準備状況の報告。各種委員会報告（編集委員会、　運営委員会）

新理事長に林知己夫氏再選
今期・理事会の構成決まる

第七回総会で新しい理事会がスタートした。新理事長には、総会後の初会合で、前理事長の林知己夫氏（統数研）が再選された。

新理事会は、本年六月の役員選挙で選出された理事・監事と、会則七条に従い、これら選出役員によって推薦された理事（推薦理事）とで構成される。第七回総会の承認を得て今期の任務についた。

新理事三十名、新監事二名は、つぎのとおり。任期は2年。

［理事長］林知己夫（統数研）
［理事］飽戸弘（東大新聞研）、浅野長一郎（九大理）、○阿部裕（阪大医）、生澤雅夫（大阪市大文）、池田央（東工大教育工学研究センタ）、○井関利明（慶大文）、岩坪秀一（大学入試センタ）、印東太郎（慶大文）、○大島正光（医療情報システム開発センタ）、丘本正（阪大基礎工）、奥野忠一（東大工）、○河口至商（北大工）、○京極純一（東大法）、○駒澤勉（統数研）、芝祐順（東大教）、○竹内啓（東大経）、○戸田正直（北大文）、○西田春彦（阪大人間科学）、○野崎昭弘（国際キリスト教大教養）、○野元菊雄（国語研）、○早川武夫（専修大法）、○肥田野直（東大教）、古川俊之（東大医）、○松原望（筑波大社工）、水野欽司（統数研）、○安本美典（産業能率大経営情報）、柳井晴夫（千葉大人文）、山本俊一（東大医）、脇本和昌（岡山大教養）　∧○印推薦理事∨
［監事］宮原守男（虎の門法律事務所）、安田三郎（関西学院大社会）

〃〃〃〃〃〃 新理事会の役割分担

◇理事会（九月六日）
於　大阪市立大学文学部
出席者　理事　十五名（他に委任状提出十一名）

1. 投票により、林知己夫氏を引続き理事長に選出。
2. 理事の当面の会務分担をつぎのように決定した。なお「関西地区担当」を新設し、担当理事は関西地区における独自的な活動の企画・運営の任に当たることとした。この「地区担当」は関西を手始めに、今後他地区に拡大するように図る。
［編集］肥田野直（委員長）、池田央（和文誌担当）、松原望（欧文誌担当）
［運営］飽戸弘
［総会］野元菊雄
［刊行物企画］山本俊一
［研究事業］古川俊之、池田央
［組織］柳井晴夫、脇本和昌
［関西］丘本正、生澤雅夫
［庶務］水野欽司、岩坪秀一
3. 編集、運営など各種委員の委嘱は、担当理事を中心に候補者を選び、次回の理事会で正式に決めることにする。

‖ 議事録 ‖

◇運営委員会（六月十一日）
於　統計数理研究所
出席者　運営委員　八名

1. 月例シンポジウム第二十四回〝計量政治学〟（五月二十六日、統数研）の開催状況について担当委員が報告。次回は秋に東京での開催を予定する。
2. 第十回講習会〝多変量解析の理論と応用〟（六月二十、二十一日、南青山会館）の準備経過について担当委員から報告。
3. 小グループ研究会援助の問題は、学会全体の研究活動企画の中で検討し、他の形に移すことを考える。

◇運営委員会（八日六日）
於　学士会館（本郷）
出席者　運営委員　十一名

1. 担当委員から第十回講習会の終了報告。参加者は六十五名。
　第二十五回月例シンポジウムは、「公害」をテーマに十月に開催する。
2. 講習会、月例シンポジウムの内容や実行方法の改善策など、委員会の活動全般にわたる諸問題について意見を交換。

◇運営委員会（九月七日）
於　大阪市立大学文学部
出席者　運営委員　十二名

1. 第二十五回月例シンポジウムは、テーマを「環境問題とその計量化」とし、オーガナイザーを、山本俊一氏（東大医）、浅井晃氏（千葉大理）として、十月二十日に開催する。
　なお、脇本委員より来年一月に、教育工学関係のシンポジウムを神戸で開きたいむねの提案があり、これを採択。
2. 現委員会の任期終了にともない、安本委員長から退任の挨拶が、つづいて飽戸新委員長より就任の挨拶があった。また、今後の運営委員会の組織や活動についての具体的な提案など、意見の交換を行なう。
　特に、委員の責任分担制の強化、地方における活動の方法、新しい活動形態の企画などが、多く論じられた。

日本学術会議からのお知らせ

日本学術会議第十二期会員選挙について

日本学術会議中央選挙管理会

昭和五十五年十一月には、三年に一度の日本学術会議会員選挙が行われます。

この選挙は、会員を選挙する方も、会員に選挙される方も有権者でなければなりませんので、次のことに御留意ください。

(1) 新たに有権者としての登録を希望する方は、登録用カードを早めに提出してください。

(2) 引き続き有権者の方は住所、勤務機関、勤務地等登録カード記載事項に変更があった場合は、すみやかに異動届を提出してください。

以上について不明の点がありましたら下記にお問い合せください。

（〒一〇六）東京都港区六本木七ー二二ー三四、日本学術会議会員選挙管理事務室
℡〇三ー四〇三ー六二九一

月例シンポジウム記録

○第二十四回〝計量政治学〟（オーガナイザー関寛治・東大東洋文化研）、五月二十六日、統数研講堂、参加者五十名。

◎会員（九月三十日現在）
（正）八七四人（準）一七二人
（賛助）三三法人

事務局から

▼学術会議からのお知らせ（4ページ）に関連して、本学会の会員で新規登録を希望する方は、登録用カード用紙（無料）を同会議選挙管理会に直接請求してください。カードは、いつでも受付けていますが、第十二期選挙に間に合うためには昭和五十五年三月三十一日までに提出して資格審査を受けること。請求は氏名押印のハガキで。

▼いつもいつものお願いで恐縮ですが、学会費未納の方、至急ご納入ください。諸物価値上がり気味のおりから、未納が多いと困ります。送金（正会員四千円、準会員二千五百円）は、振替（振替番号は2ページ下参照）をご利用ください。先年度から滞納している方は、特によろしくお願いします。

▼準会員から正会員への変更、住所や所属の異動は、すみやかにハガキでお知らせください。電話はご遠慮ください。

▼お詫び、先号の記事〝国際地理学会にご参加を！〟で、筑波大地球科学系の奥野隆史氏のお名前を「隆央」と誤りました。訂正してお詫び申しあげます。（事務子）